

熊本大学広報誌

# 熊大通信

vol.

55

2015 WINTER

特集I

## 魅力ある教育プログラムで学ぶ

特集II

## さらに“心の通う病院”を目指して

再開発が進む熊本大学医学部附属病院





## CAMPUS SCENES キャンパスの風景

### 「阿蘇耐久遠歩大会」と「紫熊祭」

開学記念日の11月1日に行われる通称“遠歩”。阿蘇山上から約58キロを歩くフルコースと、市ノ川駅出発のハーフコースと合わせて今年度は598名の学生・教職員が参加した。この日から黒髪キャンパス学園祭「紫熊祭」もスタート。午前8時50分、赤門前では「紫熊祭」の準備に追われる学生たちと友人のゴールを待ち構える学生たち双方の姿が見られた。



「紫熊祭」オープニングセレモニーでの書道部パフォーマンス



# 熊大通信 vol. 55

2015 WINTER

## 熊本大学広報誌 熊大通信

\*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】	国立大学法人熊本大学 〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1 Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007 sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp
【編集】	熊大通信編集委員会 田中 智之／委員長・大学院自然科学研究科 中川 順子／文学部 黨 武彦／教育学部 大脇 成昭／法学部 中田 晴彦／大学院自然科学研究科 谷口 まり子／大学院生命科学部 首藤 剛／大学院生命科学部 田中 尚人／政策創造研究教育センター 西川 洋子／マーケティング推進部広報戦略ユニット
【制作】	株式会社カラスプランニング

## CONTENTS

03	特集Ⅰ	魅力ある教育プログラムで学ぶ
09	研究室探訪	ローカルからグローバルへ 騒音制御の研究で世界に貢献! 大学院自然科学研究科環境共生工学専攻 人間環境計画学講座 矢野隆研究室
11	特集Ⅱ	さらに“心の通う病院”を目指して 再開発が進む熊本大学医学部附属病院
15	国際交流	インタビュー 熊本大学から世界へ 大見修也さん 世界から熊本大学へ フィレンバン・アダーリさん
17	卒業生ジャーナル	
19	KUMADAI TOPICS	
22	熊本大学基金よりお知らせ	

表紙／学生企画による講演会開催日の朝、工学部研究資料館の前に集結した「理教学生応援プロジェクト」で学ぶ学生たち

特集I

# 魅力ある教育プログラムで学ぶ

KUMADAI  
EDUCATION  
PROGRAM

熊本大学には、独自に、または国の事業として採択を受け実施されている、いくつもの特色ある教育プログラムがあります。

それらには、特別な入試や学部途中での選抜などにより、一定の基準を満たす学生が、通常より早期に履修や進級をしたり、通常のカリキュラムにはない講義や活動に参加できるなど、さまざまな魅力が詰まっています。

この特集では、学内の主なプログラムの概要をご紹介しますとともに、そこで学ぶ学生たちの声を通して、学ぶことの魅力をお伝えします。

## 現地活動を組み込んだ 語学研修

### ドイツ語・ドイツ事情研修プログラム

対象

原則としてドイツ語履修歴のある  
2年生以上の学生

期間

通年講義  
(研修期間は夏休み中の4週間程度)

受講者数

2014年度21人、2013年度37人



ボン大学の学生および同大学に留学中の熊大生と共に記念撮影する2014年度参加者たち(ボンの旧市庁舎前で)

### 熊本大学における主な教育プログラム・コース等一覧

スーパーグローバル大学創成支援事業  
(全学部/平成26年度~)

活力ある地域社会を共に創る火の国人材  
育成事業(全学部/平成26年度~)

ドイツ語・ドイツ事情  
研修プログラム(全学部/平成13年度~) **P3,4**

文学部・コミュニケーション情報学科特別  
講義—水俣と福島の地域再生を考える  
(文学部/平成26年度~)

フレンドシップ事業(教育学部/平成9年度~)

ユア・フレンド事業(教育学部/平成14年度~)

e! こころ学習プログラムの開発  
(教育学部・大学院教育学研究科/平成18年度~)

「九州四大学合同ゼミ」における地域課題と  
切り結ぶ政策教育の充実  
(法学部/平成20年度~)

理数学生応援プロジェクト **P7,8**  
(理学部・工学部/平成21年度~)

減災型地域社会のリーダー養成プログラム  
(工学部/平成24年度~)

革新ものづくり展開力の協働教育事業  
(全学部、主に工学部対象/平成23年度~)

エコファーマを担う薬学人育成プログラム  
(薬学部/平成20年度~)

グローバルな健康生命科学バイオニア  
養成プログラムHIGO  
(大学院医学教育部・大学院薬学教育部/平成24年度~)

柴三郎プログラム **P5,6**  
:熊本発 基礎研究医養成  
(大学院医学教育部/平成24年度~)

エイズ制圧のためのトランスレーショナル  
研究者育成コース(大学院医学教育部/平成18年度~)

エイズ先端研究者育成コース  
(大学院医学教育部/平成18年度~)

代謝・循環情報医学エキスパート育成コース  
(大学院医学教育部/平成20年度~)

発生・再生医学研究者育成コース  
(大学院医学教育部/平成20年度~)

国際共同教育プログラム(英語による大学院特  
別コース)(IJEP)(大学院自然科学研究科/平成19年度~)

地下水環境リーダー育成国際共同教育拠点  
(Gelk)(大学院自然科学研究科/平成22年度~)

MOT(Management of  
Technology:技術経営)特別教育コース  
(大学院自然科学研究科/平成18年度~)

みなまた環境マイスター養成プログラム  
「みなまた環境塾」(一般市民・大学生/平成19年度~)

交渉紛争解決・組織経営専門コース  
(大学院社会文化科学研究科/平成20年度~)

※年度は事業採択もしくは開始年度

## 学生が動く！熊大独自の 語学研修プログラム

熊本大学では十数年にわたり、独自の海外語学研修が行われてきました。「この研修プログラムは、ドイツのフライブルク大学の学生寮に宿泊しながら、ドイツ語の集中講座に加え、学生自らが企画した現地調査・研究活動を行うものです。学生主体の活動を組み込んでいくところが一般的な語学研修との大きな違いです」と話すのは、担当のエアバハート・ヘルツォーク准教授。

学生は前期の講義の中で、自分の専門や興味のある分野からテーマを選び、現地での見学先などを調べ、先方とメールなどでやり取りしながらアポイントを取ります。そして、見学にあたって必要な情報を事前に学習し、ほかの参加者と共有。現地では責任を持って皆を案内し、自らインタビューを行うなど、積極的に活動します。

文系から理系まで幅広い学生が参加するため、これまで、大学病院やソーラー工場の見学、幼稚園でのインターンシップ、ドイツの食文化や絵本についての調査など、バラエティ豊かな現地活動が行われてきました。帰国後は習得したデータや資料をまとめ、口頭および書面で発表します。一年にわたる学修を通して、単なる語学力の向上に留まらない、国際的な場でのコミュニケーション

シヨンを身に付けるのです。

ヘルツォーク准教授とともに研修プログラムを担当するトビアス・パウアー准教授は「準備や現地活動では教師がサポートしますが、主体的に関わることで受け身の見学では得られない貴重な経験ができます。この研修プログラムに参加して得た経験を、本格的な留学へとつなげるなど、今後の学びや人生に生かしてほしいですね」と語ります。



法学部法学科  
エアバハート・  
ヘルツォーク 准教授

文学部文学科  
トビアス・  
パウアー 准教授



### [ココが魅力!]

- ✓ **現地での活動**を組み込んでいるので、単なる語学研修では得られない貴重な経験ができる!
- ✓ **先生が同行**するので安心。準備段階の見学先とのやり取りもサポートしてもらえます。
- ✓ **留学のプレ体験**にもなる研修内容。寮に宿泊したり研究室を見学したりすることで、現地の大学の雰囲気をつかめる。

### 先生のサポートでできた貴重な体験

2013年度  
参加

文学部総合人間学科3年  
請舩 葵さん

この研修プログラムでは、自分で学びたいことをテーマにすることができます。私は博物館の学芸員になることを目指しているため、海外と日本の博物館を比較してみたいと思い参加しました。

フライブルク市にある博物館の中から「アウグスティーナ博物館」を選択。博物館の館長に連絡を取り、見学したいので案内してもらえようと思いました。そして私が企画した「アウグスティーナ・バックヤードツアー」には研修プログラムメンバーから12~13名が参加。当日は館長が自ら案内・解説してくださり、博物館と地域住民との関わり方など、参考になるお話を多く聞けました。

私の語学力はまだまじまじでしたが、先生がツアーに同行し、通訳してくださったおかげで、深く理解することができたと思います。自分の力だけでは難しいことにも、この研修プログラムがあったおかげで、積極的にチャレンジできました。



「アウグスティーナ博物館」では「大聖堂にあった石像を実際に置かれていた状態で見せる展示の仕方にも興味を持ちました」と請舩さん



### 本格留学へと背中を後押し!

2011年度  
参加

文学部総合人間学科4年  
鹿瀬島大成さん

熊大にはドイツのボン大学との交換留学制度があり、それを利用して留学したいと思っていたところ、「ドイツ語・ドイツ事情研修プログラム」の訪問先としてボン大学が組み込まれていることを知り、参加することにしました。

研修ではソーラーパネル会社や労働組合など、単なる語学研修では行かないような場所を訪問しました。ボン大学では留学生とも話せたほか、周辺を自由に散策。そこで生活している自分の姿がイメージとして浮かび、留学に対する思いが一層高まりました。

そして、2012年2月から1年間、ボン大学に留学。大学内の語学学校で学び、日本語学科のサポートもするなどして、現地の友人もできました。彼らとの交流は今も続いており、また、帰国後は留学生のチューターを務めるなど、今もドイツと関わりを持ち続けています。

不安なく、すんなりと留学生活になじめたのは、研修での経験があったからこそ。世界へと踏み出す後押しとなった研修に参加して良かったと思っています。



※「ドイツ語・ドイツ事情研修プログラム」は、来年度から内容が見直される可能性があります

# 学部から大学院まで シームレスに学ぶ

## 柴三郎プログラム

より多くの人を救える  
基礎研究医を育てたい

2004年に卒後臨床研修が義務化されて以来、大学院へと進み研究を続ける医学生が全国的に減少傾向にあります。「かつて、基礎研究医学部」と例えられるほど基礎医学研究が盛んで、多くの基礎研究医を輩出してきた本学医学部も例外ではありません」と富澤仁教授は語ります。

そのような中、文部科学省の「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」事業の採択を受け、基礎研究医を目指す人材を育成することを目的としてスタートしたのが「柴三郎プログラム」です。

プログラムは高校生から大学院生までを対象とした三つのコースからなっています。

「柴三郎Jr.の発掘」では、高校生に放課後や休日を利用して研究室を訪れてもらい、最先端の医学研究を直接指導しています。そうすることで、早期から医学研究マイン

### [ ココが魅力! ]

- ✓ **高校生の時から最先端の研究に触れることができる!** 研究成果を国内外の学会で発表するチャンスもあり。(柴三郎Jr.の発掘)
- ✓ **先取履修生として、学部4年生から大学院の講義を受講できる。** 修得した単位は大学院に進学した時に単位として認定。(プレ柴三郎コース)
- ✓ **eラーニングで大学院の講義を受講。** PCだけでなくスマートフォンにも対応しているので、自分の好きなときに学べる!(プレ柴三郎・柴三郎コース)
- ✓ **卒後臨床研修と大学院を西立!** そのため、両方を4年間で終了することができる。さらに**博士3年で修了も可能。**(柴三郎コース)

オープンキャンパスなどの機会を捉えて高校生向けオープンラボを開催。実際に大学で行われている実験や器具、装置などに触れることで、医学部への興味・関心を高めよう

#### 対象

柴三郎Jr.の発掘：熊本県内の高校生  
プレ柴三郎コース：医学部4～6年生  
柴三郎コース：医学教育部長(大学院生)

#### 受講者数

柴三郎Jr.の発掘 21人  
プレ柴三郎コース 6人  
柴三郎コース 4人  
(2014年12月現在)

高校

### 柴三郎Jr.の発掘

- 高校時代から医学研究を体験
- 研究場所・設備の提供

#### 柴三郎Jr.の発掘

### 実際に研究に触れて 研究医への興味がわきました

真和高校2年  
前田英仁さん

高校の先生からこのプログラムを紹介され、8月のオープンキャンパスの時に研究室を訪ね、面白そうだなと思い参加を決めました。9月から土・日曜を利用して研究室に通い始め、今は先生や先輩方の研究を見学させていただいているところです。

以前は“大学”というものに対して少し身構えていたところがありました。研究室の皆さんは大変親切で優しく、大学に対する印象が変わりました。祖父が開業医をしているので、自分も臨床医を目指すつもりでしたが、このプログラムに参加して、研究医に対する興味も持つようになりました。

免疫に興味があり、将来的にはがん細胞の見つけ方などを研究し、がんと共存していけるような方法を探せたらと思っています。しかし、今は分野を特定せず、幅広く見聞させて、いろいろなことを知りたいです。将来は熊大医学部に進学し、多くのことを学びたいと思います。



「柴三郎プログラム」の主催で実施する「医学科1年生向けラボツアー」では、希望する分野の研究室を訪問。このツアーをきっかけに早期から研究を開始する学生もいる

ドを育むのです。

「プレ柴三郎コース」では、放課後や休日に医学研究を実践するとともに、学部4年生から大学院の講義を受講・履修することができます。また、学部卒業後は2年間ほど卒業臨床研修を受けた後に大学院で学び、修了後再び臨床研修に戻るといったように6年間以上も要するのが通常ですが、「柴三郎コース」では、卒業臨床研修1年目から大学院での研究を開始できるため、卒業臨床研修と大学院の両方を4年で修了することが可能です。

このようにして、高校生時代から医学・生命科学の研究に興味を持つ人材を発掘・育成し、医学部から大学院修了までシームレスに研究できる環境をつくることによって、基礎研究医を目指す人材を育成するのです。

「なぜ研究医が必要なのか。それは、新しい医療技術がより多くの人を救うことにつながるからです。『柴三郎プログラム』という名称は、本学の前身校である熊本医科大学で学んだ北里柴三郎博士に由来します。このプログラムを通して、柴三郎博士のような研究医を育てたいですね」。



大学院生命科学研究所 (医学系)  
分子生理学分野  
富澤一仁 教授



### 柴三郎コース

- 卒業臨床研修と大学院を同時に
- さらに博士3年で修了も可能
- 全ての熊本大病院卒業臨床研修プログラムを選択可能
- 全ての参加病院で研修可能



#### 女性柴三郎コース

出産・育児休業中でもeラーニングによる単位の取得やメンターとの研究ディスカッションにより勉学を継続できる

### プレ柴三郎コース

- 大学院の単位を取得できる
- eラーニングで受講可能
- さまざまな研究支援がある (学会発表など)



### 多忙な臨床研修の期間でもeラーニングで無理なく学修

大学院医学教育部博士課程2年  
医学部附属病院研修医  
増田翔太さん

医学部生は、卒業後は研修医として数年勤めた後に大学院に進学する機会が多いのですが、私は研修医として働き始めると同時に「柴三郎コース」で大学院の講義を受講し始めました。臨床研修と並行して大学院で学べるため、通常より短期間で院を修了することが可能なのはありがたいことです。

大学院の講義はeラーニングを使って受講するため、研修医の仕事との両立が可能です。昨年の秋までほぼ一年間、人吉の病院に勤務し住まいも遠方になりましたが、eラーニングで時間や場所に関係なく受講できるので、支障はありませんでした。

将来は、研究医や学生の教育に関わる方面に進むことも視野に入れています。臨床医は目の前の患者さんだけを相手にしますが、研究・教育分野であれば社会全体と関われると思うのです。そのためにも医療現場での経験をしっかりと積みつつ、研究を続けていきたいと思っています。



柴三郎コース

### 一足早く大学院生としての自覚と責任を感じています

医学部医学科4年  
永芳 友さん

「プレ柴三郎コース」で「先取履修生」として大学院の講義を受講しています。学部の講義にプラスしての受講となりますが、eラーニングで好きな時間に受けられるので負担には感じません。一足早く院生としての自覚と責任を持つことができ、良い刺激になっています。できれば学部6年までに院の講義は全て履修したいですね。

昨年度は「サイエンス・インカレ」(※)に参加し、生物系のファイナリストの一人となりました。今年度もエントリーしており、今度こそは受賞したいと準備に励んでいるところです。また、将来は海外の基礎研究のラボなどに留学したいとも考えています。「柴三郎プログラム」では学会などへの参加や留学についても支援を受けられるのでありがたいです。

継続した研究を支援してくれる「柴三郎プログラム」は私にとって心強い味方です。学部卒業後は「柴三郎コース」へと進み、研究を続けるつもりです。

※「サイエンス・インカレ」…自然科学系分野を学ぶ学生が自主研究の成果を競い合う発表会



プレ柴三郎コース

精神遅滞の遺伝的メカニズムを解明することで脳とは何なのかを解き明かし、治療法につなげることを目指して研究を続ける永芳さん



# 早期から最先端に触れる！ 理数好きのためのプログラム

## 理数学生応援プロジェクト

**グローバルな視野を持ち  
社会に貢献できる人材を養成**

「理数学生応援プロジェクト」は、理数分野において理論と応用に強く、国際的に活躍できる人材を育てることを目的とした少人数制の特別教育プログラムです。平成21年度に文部科学省科学技術人材養成等委託事業に採択されたことを受け、平成23年度、理数特別入試の合格者および一部の試行学生（在学生）によりスタートしました。

「理数学生応援プロジェクト」の教育科目は、所属学科の開講科目から精選して指定される「分野別コアプログラム」と、理数科目や実験をベースにした「理数展開特別プログラム」で構成されます。『理数展開特別プログラム』には、早期に研究室を体験する『ドリームワークショップ』や、学内外のコンテストに参加し、入賞を目指す『チャレンジプログラム』など、通常のカリキュラムにはないユニークな科目が並んでいます」と話す

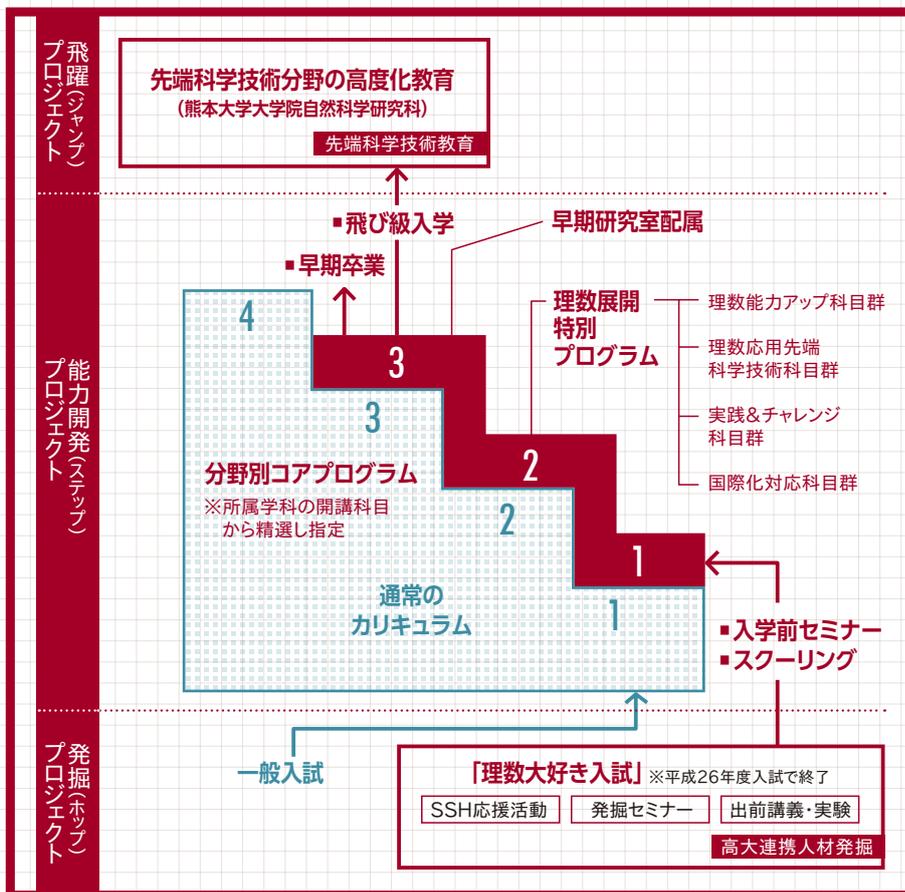


2011年に東亜大学(釜山)で開催された国際ものづくりコンテスト「日韓合同デザインキャンプ」では、韓国の学生と混成グループを組み「自然エネルギーを利用したものづくり作品」をテーマに作品製作を行った

のは福迫武准教授。

「また、海外の大学における語学研修や海外の学生と共同で国際ものづくりコンテストなどに参加するなど、英語によるコミュニケーション力やプレゼンテーション力を高めることにも力を入れています」。

3年生からの早期研究室配属や、3年生終了時の大学院自然科学研究科への飛



**対象**  
理工学部 of 学生

**受講者数**  
学部1年生5人  
2年生13人  
3年生6人  
4年生6人  
(2014年12月現在)



「理数学生応援プロジェクト」のカリキュラム



「理数学生応援プロジェクト」では学生の知見を広げるため研修旅行も実施。「(財)高輝度光科学研究センター」(Spring-8) などさまざまな施設を訪問・見学する



## 【ココが魅力!】

- ✓ **早期研究室配属**や**飛び級**によって、早い時期から最先端科学技術にチャレンジできる!
- ✓ 通常のカリキュラムにはない、**特別な科目**を履修できる!
- ✓ 英語に関する科目が充実。**国際的なコミュニケーション**能力などを養える!
- ✓ 学生自ら**社会と関わる**機会が多く、社会性が身に付く!
- ✓ **「理数」だけに留まらない多くのこと**を学べるので、視野が広がる!



大学院自然科学研究科  
情報電気電子工学専攻  
福迫 武准教授

「今年度までは入試による選抜を行っていましたが、来年度からは1年生終了時に、希望者が総合成績・面接などにより転入できるようになります。」「理数が好きに留まらず、さまざまなことにチャレンジすることに価値を見いだせる学生に、ぜひ学んでほしいですね。」

「級制度によって、早い時期から最先端の科学技術に挑戦できるのも、「理数学生応援プロジェクト」の特徴の一つです。「このプロジェクトを通して、チャレンジ精神旺盛な学生を見だし、その意欲と能力を伸ばして、我が国の科学技術をリードする人材を育てていきます」と福迫准教授。

## 飛び級によって一定早く羽ばたけます

大学院自然科学研究科  
マテリアル工学専攻2年  
上野美里さん

学部在学中に「理数学生応援プロジェクト」がスタートしたので、2年生の時に入りました。早期研究室配属という制度や、研究室に入る前でも国際学会に参加できるなど、通常とは違う経験ができることに魅力を感じたからです。

3年生後期で配属された研究室で、飛び級のチャンスをいただきました。4年生をせずに大学院で学ぶことに不安はありましたが、思い切ってチャレンジ。研究室の先生や先輩方のサポートもあり、続けることができました。

飛び級によって早めに進級することには、若いうちにキャリアアップできるというメリットがあると思います。また、飛び級によって生まれた一年を利用して留学を考える人もいるかもしれません。私は大学で学んだことを生かして早く社会に貢献したいと思い、就職の道を選びました。

「理数学生応援プロジェクト」は、違う学科の学生同士の交流も多く、良い刺激になりました。新しいことにチャレンジしたいと思ったら、ぜひ、このプログラムに参加してほしいですね。



## 海外や学外との関わりが多く貴重な経験ができます

工学部物質生命化学科3年  
市丸裕晃さん

「理数学生応援プロジェクト」では、英語や海外に触れる機会が多く、私は2年生の時に「学生国際会議(ICAST)」に参加し、英語でのプレゼンテーションを行いました。この時は「理数展開特別プログラム」の科目の一つである「理数特別英語」で、英語によるプレゼンテーションの仕方を学んでいたことが大いに役立ちました。

昨年12月にはSONYから講師をお招きし、講演会を開催。これは「ドリームシンポジウム」といって、講師の選定から出演交渉、講演会の運営まで、全て学生が主体的に行うものです。準備は本当に大変でしたが、社会と関わり、自分たちの力だけでやり遂げたことは、貴重な経験となりました。

3年生後期から研究室配属になりました。人より早く多くのことが学べるのはこのプロジェクトならではの。将来は大学院に進み、学外、そして世界へも目を向けて研究を続けていこうと思っています。



「ドリームシンポジウム」では学生主体の講演会を企画・運営



# 研究室探訪

Laboratory Exploration

## 矢野隆研究室

大学院自然科学研究科

環境共生工学専攻  
人間環境計画学講座

**建** 築の上で重要な要素である「音環境」。その中でも「騒音制御」について研究を行うのが、矢野隆研究室です。ここでは「九州新幹線開通前後の沿線の騒音調査」、「国内外の騒音に関するデータベースづくり」など、さまざまなテーマに取り組んでいます。

2005年から継続的に取り組んでいるのが「ベトナムの騒音調査」です。学生たちは現地の大学や関係機関の協力を得ながら現地調査を実施。バイクのホーン音などを「騒音計」で計測するとともに、住民へのアンケート調査も行っています。「騒音問題は先進国よりも途上国の方が深刻。調査結果を国の騒音政策に生かしてもらったり、国際的な議論の場へと提起したりしたいですね」と矢野教授は語ります。

また、メーカーとの共同研究で吸音機能に優れたゴム製床材を開発。従来、吸音材として天井や壁に使われているガラス繊維（グラスウール）と比較すると、ゴムは強度があり、音の反響も抑えられることに注目したもので、商品化もされています。

**国** 際学会にメンバーの多くが参加する矢野研究室。「問題を見だし試行錯誤しながら解をつかんでいく力や、英語でのプレゼンテーション能力が身に付くほか、世界的な研究者との出会いなど、国際学会は自分を磨く素晴らしい機会。どんどんチャレンジしてほしい」。

研究室のモットーは“ローカルからグローバルへ”。例えば「風力発電施設近郊の騒音調査」などはエネルギー施策の将来に関わり、世界からも注目を集めています。「音環境というと建物の中の閉ざされた空間を扱うローカルなイメージがありますが、実は国際貢献や世界的プロジェクトに関わるグローバルな研究。学びを通じて、世界的な視野を身に付けてほしいですね」と矢野教授は学生たちに期待を寄せます。

## lab's data

[矢野研究室データ]

### □ 研究テーマ

- I. ベトナムでの交通騒音に関する社会調査と国際比較
- II. 九州新幹線騒音に関する社会調査
- III. 風力発電施設周辺の居住環境調査
- IV. アジアの社会音響データアーカイブの構築
- V. リサイクルゴムを使った吸音材の開発
- VI. 熊本県産木材を使った吸音・遮音材料の開発



ゴム製品メーカーと共同研究したゴム製床材。ゴムの粒子を数ミリ単位でブロック状に固めた多孔質な構造により吸音。

### □ メンバー

矢野隆教授、グエン・ツ・ラン学術研究員、大学院生5人、学部4年生3人

### □ OB・OGの進路

大成建設株式会社、三井住友建設株式会社、旭化成株式会社、積水ハウス株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社LIXIL、国土交通省、防衛省、熊本県庁、熊本市役所 ほか

## Interview:

### 国や文化によって感じ方が違う“うるささ”の基準は面白い!

自然科学研究科建築学専攻  
博士前期課程2年 下山晃司さん

私がこの研究室に入ったのは、矢野先生の建築音響の講義を受けたことがきっかけです。音の大きさの数値は同じでも、例えばピアノの音と電車の走行音など、種類によって感じ方が違うというお話を聞き、音の“うるささ”には測定値という数値的なものだけでは測れない、感覚的なものに関わってくるところが面白いと感じたのです。

私の研究テーマは「ベトナムの道路交通騒音」。バイクのクラクションがあいさつ代わりというお国柄で、騒音は相当なものです。それを物理的に「騒音計」で測り数値化するとともに、住民アンケートによって“どう感じているか”という主観も加味していきます。“うるささ”の感じ方には社会的背景が影響しており、国や文化によって同じ数値でも感じ方が違うため、双方を併せて調査することが必要なのです。

4月からは建設会社で働く予定です。どんな設計にも建築音響で学んだことが生かせると思います。また、この研究室は英語や海外に触れる機会が多く、その点でも貴重な経験をさせてもらったと思っています。



この日は黒髪南キャンパスの国指定重要文化財「工学部研究資料館」内にマイクやスピーカーを設置し、音響測定を行った。

## 密着！ 矢野研究室

“音”を通して“世界”を見つめる。グローバルな視点で研究に取り組む矢野研究室におじゃましました。



## ローカルからグローバルへ 騒音制御の研究で世界に貢献!

Sep.  
7



ベトナム・ハノイでの現地調査では、ノイバイ空港周辺の住宅屋上で1週間の航空機騒音測定を行った。

L 15:05



周波数ごとに残響時間(音の響き具合)を測定。「工学部研究資料館」の残響時間は約1.6秒でコンサートに最適。

14:40



レンガ造りの重厚な建物では時折コンサートも開催されているが、本格的に音の響き方を測定するのは初めて。



←  
特集Ⅱ

# さらに “心の通う病院”を 目指して

## 再開発が進む熊本大学医学部附属病院

熊本大学医学部附属病院(以下、熊大病院)では“心の通う病院”を基本理念とし、「高度先進医療の充実」、「地域医療の中心的役割」、「医療スタッフの育成、研究・開発の推進」を目標に、敷地内の再開発計画を進めています。十数年にわたり続くこの計画は、2014年9月に新しい外来診療棟が竣工したことにより大きな整備がほぼ完了しました。今回の特集では、新しくなった熊大病院の姿をご紹介します。

### 地域医療の核として 先進の医療を提供

本院の再開発整備計画は、2002年に西病棟、2006年に中央診療棟、2010年には東病棟が完成し、今回の外来診療棟の開設で一段落しました。今後は管理棟や臨床研究棟の移転などを行い、2〜3年後には完成へと至る予定です。

新しい外来診療棟は自然光がふんだんに降り注ぐ明るい空間で、大学病院のイメージ

が「新されたという方も多いのではないだろうか。新しい建物、新しいシステムを導入することで、診療体制は大きな節目を迎えました。本院を信頼して受診してくださる患者さまに対して、より親しみやすくあたたかい病院であることを目指していかなければと思っております。

大学病院には、いかなる疾患や外傷にも対応できる、地域医療の中心、地域医療ネットワーク体制の核としての機能を担うという使命があります。また、先進医療の開発・導入にも積極的でなくてはなりません。これからも、安心・安全に高度先進医療を地域に提供できる病院でありたいと考えています。

### 再開発ポイント

- 外来診療棟 (P11・12)
  - プライバシーに配慮した患者案内システムを導入
  - 診療科特性に応じてブロックで区分し、利用しやすい配置に
  - 中央処置室を中央採血室隣に設け効率的に
- がんセンター (P13)
  - がんの拠点病院としての機能を集約
- ハイブリッド手術室 (P14)
  - 先進の医療施設を導入し、安心・安全で質の高い医療を実現



熊本大学医学部附属病院  
谷原秀信 病院長

配置図 (2014年12月現在)



将来配置図



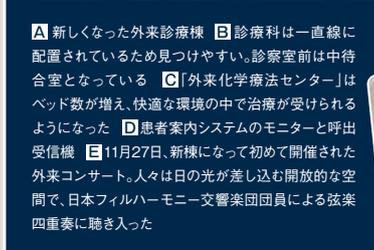
B



C



D



E



D

A

**A** 新しくなった外来診療棟 **B** 診療科は一直線に配置されているため見つけやすい。診察室前は中待合室となっている **C** 「外来化学療法センター」はベッド数が増え、快適な環境の中で治療が受けられるようになった **D** 患者案内システムのモニターと呼出受信機 **E** 11月27日、新棟になって初めて開催された外来コンサート。人々は日の光が差し込む開放的な空間で、日本フィルハーモニー交響楽団員による弦楽四重奏に聴き入った

←  
**外来診療棟**  
 Outpatient Clinic Building

受診者にとって  
 より快適な環境と  
 充実した診療体制へ一新

本院は、年々外来受診者数が増加しています。患者さまにより快適な環境で診療を受けていただけるように、新しくなった外来診療棟ではさまざまな工夫を取り入れました。

2014年4月から全診療科完全予約制を実施している外来診療では、予約時間の1時間前からのみ診察受付できるシステムに変更しました。早過ぎる来院を防ぐことで、待ち時間が短縮され、院内の混雑も減っています。

また、受診者のプライバシーに配慮し、氏名による呼び出しをやめ、受付番号による呼び出しに改めました。希望者には呼び出し受信機を貸し出して、携帯電話やスマートフォンによる呼び出しも可能です。そうすることによって、患者さまには待ち時間を院内で自由に過ごしていただけるようになります。

また、各診療科を見通しのよい直線型に配置し、以前は別々のフロアにあった消化器外科と消化器内科を同じブロックにするなど、患者さまにとって利用しやすい造りとし

ました。さらに、「中央採血室」の隣に、輸血や点滴、注射、骨髄穿刺などを行う「中央処置室」を新設。これまで各科分散して行われていた処置を集約することで、各診療科の省スペース化やスタッフ間の連携の強化も実現しています。

新外来診療棟のオープンに伴ってシステムの見直しや設備の充実を図ったことにより、医療スタッフの雑務が軽減され、より患者さまの方に視線が向けられるようになりました。不安を抱えて来院される患者さまに少しでも安心して治療を受けていただけるよう、まだまだ改善すべき課題が多くありますが、これからもスタッフ一同心をつぎつぎと取り組んでいきます。



熊本大学医学部附属病院  
 外来看護師長  
 木村美子 看護師



がんの疾患別冊子やビデオなどの情報を集めた「がん相談支援センター」の情報提供コーナー



情報提供コーナーには、プライバシーに配慮した個室の相談室も併設されている



患者さま自身が持ち歩く、熊本県がん診療連携クリティカルパス「私のカルテ」。診療計画などが記載されており、患者さまとかかりつけ医、専門医の三者が情報共有する

←  
がんセンター  
Cancer Center

地域のがん診療の拠点として  
患者さまとご家族の  
安心・安全を目指す

熊本大病院は、2006年に厚生労働省から「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、名実ともに熊本県のがん診療の中心としての役割を担っています。県内にはほかに、国が指定する「地域がん診療連携拠点病院」7病院と、県が指定する「熊本県がん診療連携拠点病院」11病院があり、熊本大病院はこれらの病院に対し、医療従事者を対象とした研修や情報提供を行っています。また、がん患者に対する相談支援および情報提供も行うなど、地域のがん診療の連携協体制の構築とレベルアップに努めています。

患者さまとご家族に対し、治療やそれに伴う経済的な悩みなど、さまざまなご相談に対応しています。

熊本県では、地域のかかりつけ医と専門医（がん診療連携拠点病院）が連携して取り組むがん診療連携クリティカルパス「私のカルテ」が全国的に注目を集めるなど、医療連携が進んでいます。各組織が連携し合うことで、患者さまはどこにいても安心してがん診療が受けられるのです。また、本院はそれぞれの診療科が高度ながん診療の技術を持っています。それらががんセンターを通じて地域で横断的に共有し合うことにより、これからは質の高い安全ながん診療を提供していきたいと思えます。

熊本県では、地域のかかりつけ医と専門医（がん診療連携拠点病院）が連携して取り組むがん診療連携クリティカルパス「私のカルテ」が全国的に注目を集めるなど、医療連携が進んでいます。各組織が連携し合うことで、患者さまはどこにいても安心してがん診療が受けられるのです。また、本院はそれぞれの診療科が高度ながん診療の技術を持っています。それらががんセンターを通じて地域で横断的に共有し合うことにより、これからは質の高い安全ながん診療を提供していきたいと思えます。

地域のがん診療の拠点であるがんセンターは、患者さまをサポートする「外来化学療法センター」、「緩和ケアセンター」、「がん相談支援センター」およびデータの収集や提供を行う「がん登録センター」で構成されています。このたびは外来診療棟が新しくなるとを機に、それらの機能を外来診療棟の1階と2階に集約しました。中でも「がん相談支援センター」は1階総合受付のすぐ近くに設置し、気軽に立ち寄っていただけるようにしました。常駐するがん専門相談員が、



熊本大学医学部附属病院  
がんセンター長  
岩瀬弘敬 教授



ベッドの上に「Oアーム」と呼ばれる可動式の透視装置を備えたハイブリッド手術室。大型のモニターにさまざまな情報を映し出し、スタッフの情報共有を図る



手術室の隣にある操作室では、手術室内の映像やバイタルサイン、CT画像などをモニターできる



ハイブリッド手術室の入り口には、「手術中」と「撮影中」の二つのランプが並ぶ

## ハイブリッド手術室 Hybrid Operating Room

### 高度な医療を提供できる 先進医療施設を積極導入

「患者さまのニーズの多様化に対応できるよう、最先端の医療技術を積極的に取り入れ、その技術をいかに発揮できる最新の医療施設を導入することは、大学病院が担うべき役割の一つです」。熊大病院が担当である馬場秀夫教授はそう語ります。

2014年、熊大病院ではハイブリッド手術室を設置しました。ハイブリッドには「異種のを混成する」という意味があります。ハイブリッド手術室とは、手術室と透視装置を統合することにより、外科的な治療と内科的なカテーテル治療を同時に行うことが可能となった手術室のことです。

通常、外科手術と、体内を透視しながら行うカテーテル治療は、別の場所で行われます。カテーテル治療中、患者さまの状態が急変し開胸手術が必要になった際は、手術室へと移動しなければなりません。ハイブリッド手術室であれば、すぐその場で外科手術へと移行できます。また、術中に、解像度の高い最新の血管撮影装置で血管造影ができるため、治療の状態をその場で確認でき

るといふメリットもあります。

手術は、循環器内科医や画像診断科の医師、看護師、臨床検査技師などからなるチームで行われます。多分野の医師やスタッフが一堂に会するため情報共有が欠かせないことから、一つのモニターにCT画像やバイタルサインなどを集約して映し出すことで、スムーズな手術を可能にしています。

「ハイブリッド手術室では、2015年1月から、より身体的負担が少ない最新の大動脈弁置換術『TAVI（経カテーテル的大動脈弁植込術）』を開始予定です。大学病院として、先進的な医療の導入をこれからも進めていきます」と馬場教授は語ります。



熊本大学医学部附属病院  
副院長  
馬場秀夫 教授



●アメリカ

流

交

# 世界と積極的に関わることで 自分が“知らないこと”を知る

医学部医学科3年  
Aさん

今年度初めて開催された「UCLA夏期研修セミナー」。  
8月6日から9月3日までの4週にわたり  
カリフォルニア大学ロサンゼルス校に滞在したAさんは  
これまでも海外と積極的に関わってきました。

小学生のころアメリカで暮らしたことがあり、その後ずっと英語を勉強してきました。また、これまでも「東アジア医学学生会議」や「Jays」(日本国際保健医療学会 学生会部会)の運営に携わるなどして、海外とも積極的に関わるようにしていました。

「UCLA夏期研修セミナー」に参加したのは、英語力を試したかったことと、募集案内に「UCLA教授陣によるナノサイエンス・ナノテクに関する講義」とあったからです。全く未知の分野なので興味を持ちました。

講義では、最新の抗がん剤について学ぶことができました。薬の詰まった4000オングストローム(\*)の小さなカプセルを、血液を通して腫瘍組織に送り届け、光・磁力などの刺激を加えることでふたを開かせるという非常に興味深い内容で、医療とナノサイエンスの融合の奥深さに驚きました。講義してくださったのは日本人の教授。海外に



Aさん主催のミーティングでは、医療やグーグルグラスに関する動画を見て、少人数で討論を行った。もちろん全て英語。中国人、日本人合わせて15人ほどが参加した。

根を下ろして活躍されている方にお話を伺えたのは良い経験でした。

また、研修期間中は自分の得意分野を生かす何かをしたいと、宿泊先のUCLAの学生寮で中国からの留学生を誘い、動画を見てディスカッションするミーティングを主催したりもしました。

海外と関わることで、自分が知らないことを知ることができ、それが次の学びへの原動力となります。熊大には海外からの留学生が大勢います。日本にいながらにして海外と接することができるのは素晴らしいことです。

以前は途上国での医療活動に目を向けていましたが、UCLA研修を経て広く世界を視野に入れるようになりました。まずは医学をしっかり学び、自分に何ができるか探していきたいと思っています。



\*オングストローム…長さの単位。1オングストロームは百分の1メートル

## International exchange Report

国際交流レポート  
平成26年9月～11月

9 / 8 第5回ヨーロッパ・アジアパルスパワール国際会議を本学にて開催(12日まで)

国内外から201人の研究者・学生が集いました。



12 ヴァレンシア大学(スペイン)熊本大学/大学間学術交流協定 調印式・表敬訪問

山中至副学長が、ギレルモ・パラオ副学長などを表敬訪問。交流協定調印の後、今後のさらなる研究・教育面での交流について、意見交換しました。



16 平成26年度「教育の国際化推進のためのFD研修」を実施(18日まで)

第4回アジア工学教育会議(ACEE2016)を本学にて開催(12日まで) 国内外から130人(うち海外40人)の研究者・学生が集い、工学教育に関する活発な議論が行われました。



15 中国とフィリピンとの学生らが本学を訪問(24日まで)

独立行政法人科学技術振興機構「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」の採択を受け、吉林大学(中国)および四川大学(中国)、テラサル大学(フィリピン)から大学院生9人と教員2人を大学院自然科学研究科に招へいしました。

世界から熊本大学へ

# 分泌型分子「Akhirin」の働きを研究 母国の医学教育を支えたい

大学院医学教育部 博士課程医学専攻4年  
フィレンバン・アダーリさん

2008年に来熊し、中枢神経系の幹細胞制御機構について研究しているサウジアラビア出身のアダーリさん。この春からは出身大学の教師となり母国の教育に携わることに期待を膨らませています。



小さいころから虫などの生き物に興味があり、サウジアラビアのウナム・アルクラー大学で生物学を専攻しました。さらに生命現象への学びを深めたいとの思いから「キング・アブドラ奨学金」を受けて、熊本大学に入学しました。

熊大との出会いは、さまざまな大学が一堂に集まる留学生向けの説明会です。担当の方が私の研究を理解し、すぐ神経化学分野の故田中英明教授にコンタクトを取ってくださいました。その後、教授とメールのやりとりをするうちに、神経の働きに興味を持ちました。

現在は太田訓正准教授のご指導の下、「Akhirin(アキリン)」という分泌型分子による脳神経幹細胞や脊髄神経幹細胞の制御メカニズムについて研究しています。在学中は、たくさんの学会に参加させてもらいました。そのおかげで、多くの研究者と出会い、



マウスの脊髄に存在する「Akhirin」を薄くスライスし、染色した後顕微鏡で観察する。

いろいろな知識を身に付け、貴重な体験をすることができました。

熊本は自然が豊かで、食べ物がおいしいところが気に入っています。最近、はまっているのがレンコンです。研究室の実験補助員の方がレンコンのキンピラを作ってください、それがすごくおいしかったのがきっかけです。熊本で好きな場所は、阿蘇ですね。先日、ヘリコプターに乗って阿蘇の火口を見るチャンスがありました。まるで、お鍋の中のようにグツグツしているのが見えて、すごくスリリングでした。

3月にはサウジアラビアに戻り、母校であるウナム・アルクラー大学で教師になりました。熊大の先生や仲間との出会いを大切に、学んだ知識を母国の学生たちに教える日が待ち遠しくなりました。そして、いつの日か教師として熊大に戻って来たいと思っています。



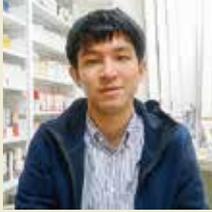
アダーリさんが発表したポスターの前に太田准教授と。「私の研究を尊重し見守ってくださった先生に感謝しています」とアダーリさん。

- 24 第16回全国近代漢語学術研究会議に参加(27日まで)  
江西省江西師範大学(中国)で開催された本会議に植田均教授が出席しました。本会議には中国や台湾などの第一線で活躍する学者、約120人が参加し、研究報告をしました。
- 11/3 ミツマーの教員・大学院生らが本学を訪問(7日まで)  
「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」により、ミツマーのヤンゴン工科大学とマンダレー工科大学から教員8人と大学院生1人が大学院自然科学研究科を訪問しました。
- 4 「留学生と保健学系学生との交流会」(第4回)を九品寺キャンパスで開催  
保健学系国際化推進委員会の主催で、本学留学生との交流と英会話力向上を目的に学生教職員ら60人が参加しました。
- 6 第7回三大学エンジニアリングワークショップ(6日まで)  
中国・山東大学にて開催され、本学から教職員・学生14人が参加しました。
- 20 パーナーニペーテル・カトリック大学(ハンガリー)表敬訪問(2日まで)  
山中副学長が同大学を表敬訪問し、近く締結される大学間学術交流協定の進捗状況報告と最終調整を行ったほか、日本語を話せる法学部生たちと交流しました。





## 熊大時代にフィールドワークで 培った視点を今も研究に生かす



**松本 貴文**  
Takafumi MATSUMOTO

下関市立大学経済学部  
(山口) 勤務

文学部地域科学科・平成16年度卒/  
大学院文学研究科・平成18年度修了/  
大学院社会文化科学研究科・平成22年度修了

昭和56年生まれ、熊本県八代市出身。熊本県立熊本高校卒業。熊本大学大学院修了後、尚絅大学文化言語学部助教を経て現職。趣味は2歳の子どもと遊ぶこと。

熊大のココがイイ!

自由で、  
のんびりとしていて、  
気軽に研究室に  
顔が出せるところ。

漠然とした将来像しか  
描いていなかった高校時代

小学校のころから社会科全般が好きだったので、できれば中学・高校の社会科教師になりたいと思っていました。しかし、この夢は、大学入学後に教職関連科目の単位をたくさん取らなくてはならないと知ってすぐに諦めてしまいました。それくらい漠然とした将来像しかありませんでした。

実習を通してフィールドワークの  
面白さに目覚めた大学時代

11年間熊大に在籍していた中でも、学部3年の時に調査実習で天草に出掛け、フィールドワークの面白さを実感したことをよく覚えています。卒業論文も農家に泊まり込みで調査しましたし、院生時代には指導してくださった先生と全国を旅しました。研究室のメンバーと夜遅くまで作業をしたのがよい思い出です。

学生時代の学びの中で培った視点は  
今の研究生生活にも生きている

大学院修了後は、運よく熊本市内の大学に職を得ることができました。平成26年4月からは下関の大学に移り、講師として、過疎地域のまちづくりに関する研究を続けています。最近では、行政やNPOの実践に関わる機会も増えてきました。そのような時、熊大で学んだ「暮らしから地域をみる」視点がとても役に立っています。



## 患者さまのため、自分のため 薬剤師のことを日々勉強



**松本 幸恵**  
Yukie MATSUMOTO

株式会社大賀薬局(福岡)  
勤務

薬学部薬科学科・平成10年度卒

昭和52年生まれ、大分県別府市出身。小学4年の時に福岡へ。福岡県立修猷館高校卒業。音楽が好きで、ライブや野外フェスに行くことも。車の運転が苦手なので、クロスバイクでどこへでも出掛ける。

熊大のココがイイ!

先輩・後輩の  
つながりが強く、  
卒業した後も  
サポートし合えるところ。

母の職業と選択コースから  
選んだ進路は正解だった

高校時代はまだ進路は明確ではありませんでしたが、母が薬剤師をしていたこと、理系を選択していたことから、薬学部を目指しました。薬剤師となった今、病気や薬について学ぶことが楽しく、自分の知識が深まる上に患者さまにも喜んでもらえるこの仕事を選んで良かったと思っています。

興味があれば何にでもチャレンジ  
たくさんの経験を積めた4年間

熊本や鹿児島のに潜ってスキューバダイビングのライセンスを取得するなど、興味のあることには何にでもチャレンジしました。研究室配属後は実験によってさまざまな経験を積めたこと、薬剤師国家試験の勉強を友達と夜遅くまで頑張ったこともよい思い出です。一学部で一つのキャンパスを占める薬学部は、先輩・後輩のつながりが強く、食堂や中庭に集っていつも仲良くしていました。

自らの知識を深め  
患者さまに的確なアドバイスを

最初は福岡の病院に入局し、薬剤師の知識全般や病棟活動などを学びました。現在は福岡大学病院の門前薬局を任されています。場所柄、患者さまの疾患はさまざま。薬や症状について相談を受けることも多く、自分のアドバイスが少しでも患者さまの助けになるよう、勉強を続ける毎日です。



## 自分自身の失敗や挫折、感動を 一人でも多くの生徒に伝えたい



**中迫 友希**  
Tomoki NAKASAKO

指宿市立指宿商業高校  
(鹿児島) 勤務

工学部数理工学科・平成22年度卒

昭和63年生まれ、鹿児島県鹿児島市出身。鹿児島市立鹿児島玉龍高校卒業。高校時代は社会と国語が苦手。選択科目の書道も全く進歩できず。野球は高校まで続け、現在は指導者として野球・ソフトボールに携わっている。

熊大のココがイイ!

同級生、先輩、  
先生との仲が良い。また、  
かっこいい先生が多い!

挫折を乗り越えて続けた野球を  
きっかけに教師の道を志す

「公立高校で甲子園に!」を目標に、野球に明け暮れる毎日でした。けがで挫折しやめようと思った時期もありましたが、当時の監督や、今も現役の教師として野球部の監督を務める父の助言によって続けることができました。負けはしたものの最後までやり遂げた時に感じた充実感と感謝の気持ちを多くの子どもに伝えたく、また、監督や父の姿に憧れ、教師を志すようになりました。

何にでも積極的に参加!  
充実した学生時代

1年の時はボクシング部やサッカー・バスケのサークルに所属。キャンプにも参加し、学部の仲間と国内外へ旅行にも出掛ける傍ら、バイトも4年間続けました。4年で研究室配属になり、研究室仲間と研究内容などについて語り合う時間も最高に楽しいものでした。

高校時代も教師になった今も  
目標は「公立高校で全国へ!」

現在は地元に戻り、数学の教師をしています。私自身の学生時代の感動や失敗話を含め、少しでも多くの生徒と語り合いたいと思っています。ソフトボール部の監督も務めており、「公立高校で全国大会に!」が目標。教科でも部活でもサイコーの指導者を目指します!

# 卒業生 ジャーナル

Graduates'  
Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る

「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍する

先輩たちのこれまでの歩みや苦勞、

そして喜び、楽しみなどを通して

精励するその姿をご紹介します。

医

## 大好きな生まれ故郷で 放射線技師として役立てる幸せ



中村 沙織

Saori NAKAMURA

熊本赤十字病院 勤務

医学部保健学科・平成21年度卒

昭和60年生まれ、熊本県熊本市出身(今の職場で産めました!)。熊本県立済々養高校卒業。趣味は読書と音楽鑑賞。たまに旅行。去年の夏休みはニューヨークを散歩した。

熊大のココがイイ!

本人のやる気次第で  
なんだって  
できる環境が  
整っていること!

好きな絵と画像に関する  
学問の運命的な出会い

絵を描くのが好きだったので、長いことクリエイター関係の仕事に就くのが夢でした。そんな中、画像に関する学問に面白味を感じ、同時期に診療放射線技師という仕事を知りました。もともと医学にも興味があり、強い魅力を感じました。今思えば運命的な出会いでした。興味のあることには何にでもアンテナを張ることが大切だと考えています。

複雑な放射線学に苦労しつつ  
サークル活動にも打ち込んだ日々

放射線に関する学問は複雑で苦勞しましたが、実習先には熊大出身の先輩方が数多くいらして、温かくご指導いただき感謝しています。体育会吹奏楽部に所属し、学科がある九品寺キャンパスと部室のある黒髪キャンパスとを毎日行き来しました。おかげで他学部生との親交も深まり、幅広い視野を得ることができたと思います。今も続く彼らとの交流は私の宝物です。

熊大で基礎を学んだからこそ  
進歩し続けられる私がある

現在は、診療放射線技師として働いています。熊本に生まれ育ち、この地が大好きなので、その中核を担う病院で地域の方々のお役に立ててうれしく思います。大学卒業後も学ぶことは数多く、学びの基礎を熊大で育んだからこそ今の私があると感じています。

理

## 大学での学びを生かし グローバルな開発事業に携わる



寺本 雅子

Masako TERAMOTO

日本工営株式会社(東京)  
勤務

理学部地球科学科・平成12年度卒/  
自然科学研究科博士前期課程・平成  
15年度修了

昭和54年生まれ、京都府八幡市出身。京都女子高校卒業。熊大大学院博士前期課程修了後、京都大学地球環境学会にて地球環境学博士号取得。飛行機から地形を眺めるのが趣味で、中東経由の帰国便では白ワイン片手のヒマラヤ山脈越えが至福のとき。

熊大のココがイイ!

大学も街も  
自転車で行き来できる  
地理的環境と時間感覚。

熊大を選んだ決め手は  
幼いころ食べたラーメン!?

自然現象に興味があり、高校では地学が一番好きでした。将来は研究者になり、自然環境問題の解決に貢献したいと考えていました。熊大大学を選んだのは、地学の研究フィールドとして最適な阿蘇山があることと、幼いころ熊本に旅行した際に食べたラーメンの味が忘れられなかったからです。

飲み、語り、旅し、学び……

忘れられない思い出満載の学生時代

寮で、研究室で、赤ちょうちんで、仲間や先輩、教授陣と酒を飲んでは夜更けまで語っていました。寮の仲間との「熊粹祭」でのバンド演奏、テントを抱えての四国一周の地質巡検、イギリスのパーミンガム大学への交換留学。また、熊本市内のアマチュアオーケストラに所属し、マーラーの交響曲を全曲演奏したりなど、たくさんの思い出ができた学生生活でした。

大学で身に付けた知識を生かし

アフリカ・中南米を中心に海外と関わる

大学で学んだ知識を社会に生かしたいと思い、建設コンサルに就職。当初は国内の土壌・地下水汚染の調査、対策業務に携わり技術の基礎を身に付けました。4年目からは希望していた海外事業部で、ケニアの地方給水事業を皮切りにアフリカや中南米の地熱発電事業など海外の開発事業に携わっています。

法

## より多くのお客様へ よりおいしく製品を届けたい



中島 達也

Tatsuya NAKASHIMA

サントリーピア&スピリッツ  
株式会社(宮城) 勤務

法学部法学科・平成2年度卒

昭和42年生まれ、福岡県北九州市出身。福岡県立門司高校卒業。熊本大学法学部を経てサントリー株式会社へ入社。趣味はスポーツ観戦や読書、旅行、食べ、飲み歩き。

熊大のココがイイ!

歴史があり、  
緑多く、自然と  
共生しているところ。

海外への憧れなど

ほのかな夢を描いていた高校時代

高校生のころはまだ「これだ!」という明確な目標はありませんでしたが、先生からご自身が経験された海外への留学や生活体験のお話を聞く中で、いつか自分もそんな世界に触れてみたいと思うようになりました。実際は、私の語学能力が追いつかず、残念ながら実現はしませんでした。

進んで人と交流し

コミュニケーションの大切さを学ぶ

大学時代は勉強以外の領域にも数多く触れたいと思い、アルバイトやサークル仲間との交流を深めることで、人とのコミュニケーションの大切さを学びました。また、アルバイトで貯めたお金で夏休みは海外に旅に出て、今まで触れたことのない世界を体感したり、そこで出会う人たちとの接点を楽しんでいました。

広いエリアを統括する立場で  
酒類営業に関わる仕事に励む

現在はサントリーの市場開発本部という部署で、北海道・東北・関信越エリアを統括する部長の立場で酒類営業に係わる仕事をしています。市場開発本部は、外食チェーン企業専門に営業を行う部署です。当社製品をよりおいしく、そして一杯でも多くお客さまにお届けすることを目指して日夜業務に励んでいます。

教

## 得意科目ではないからこそ 「分かる授業」ができるはず



小林 大地

Daichi KOBAYASHI

水俣市立水俣第二中学校  
(熊本) 勤務

教育学部小学校教員養成課程・平成  
25年度卒

平成3年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本学園大学付属高校卒業。中学・高校とバレー部に所属し、今も女子バレー部の顧問を務める。毎日好きなバレーができて幸せを感じている。

熊大のココがイイ!

学生の「元気の良さ」と  
「仲の良さ」!

進路の可能性の幅広さが

魅力的な教育学部

高校生のころは銀行で働くことに憧れていました。オープンキャンパスで教育学部には教職だけでなくさまざまな進路の選択肢があることを知り志望しました。しかし、大学で文学の面白さを知り、それを伝えたいと教師を志すようになりました。国語は得意ではありましたが、「分らない」が分かるからこそ「分かる授業」を目指したいと思います。

同じ不安を抱える友人と共に  
教員採用試験を乗り越える

大学では何をする時も友人と一緒にでした。遊ぶ時はもちろん、採用試験の勉強をする時も共に筆記試験や面接、模擬授業の練習などに取り組みました。採用されなかった場合の生活のことや自分の教師としての能力など不安は尽きませんでした。同じ不安を抱える友人と一緒にだったからこそ、乗り越えられたのかもかもしれません。

初任地・水俣での学びを

これからの教育に生かしたい

学生時代は2週間の教育実習を「大変だ」と言っていた私も、教員一年目の今、授業づくりだけでなく部活指導や校務分掌もこなしています。初めての赴任地である水俣は、環境について考える機会の多い場所です。この地で学んだことを、今後の教育で伝えていきたいと考えています。

## REPORT

KUMADAIマグネシウム合金で米国ボーイング社と  
共同研究に関する協定を締結

平成26年10月22日(水)、本学と米国ボーイング社との間で共同研究に関する協定を締結し、調印式を執行了いました。

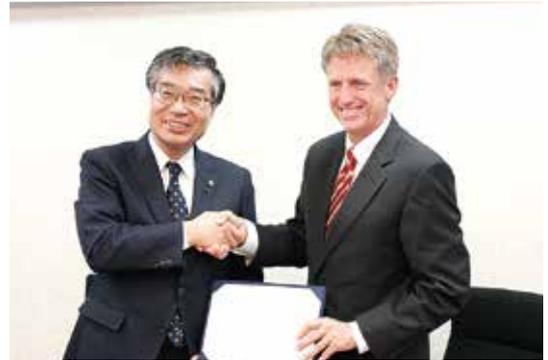
今回の協定は、熊本大学先進マグネシウム国際研究センター長の河村能人教授が開発した、軽さと強さで群を抜くKUMADAIマグネシウム合金の実用化を加速させるべく、世界最大の航空機メーカーであるボーイング社との連携協力の強化を目指して行われたものです。

KUMADAIマグネシウム合金は、米国連邦航空局(FAA)による燃焼試験において、航空機にも使用できる

ほどの高い難燃性を持つことが証明されており、今後、航空機のみならず多方面で活用できる新素材として、広く産業界から期待が寄せられています。

調印の後、谷口学長とボーイング社代表役員は固い握手を交わし、今後ますます連携を深め、航空機産業の発展を通して幅広い社会貢献を目指す決意を新たにしました。

詳細は、右記のQRコードから動画でもご覧いただけます。



## REPORT

スペインからヴァレンシア大学のエスブルーゲス教授を招き  
スペイン法の講義を開催

平成26年9月29日(月)～10月1日(水)、「大学院教養教育プログラム」の一環として、スペインからヴァレンシア大学法学部のカルロス・エスブルーゲス-モタ教授をお招きし、「紛争解決における新たな傾向：日本、スペインおよびEU」と題する講義を開催しました。

日本の大学でスペイン法に関する講義を行っている大学はほとんどないため、今回の開催は極めて希少かつ貴重な試みといえます。講義は、スペインという国の歴史や文化の話から始まり、法律の専門分野に関しても身近な例え話が随所に織り込まれた、



講義中のエスブルーゲス教授

初学者にも大変に分かりやすいものでした。

ヴァレンシア大学と本学は、9月12日(金)に大学間学術交流協定を締結しています。来熊中、エスブルーゲス教授は谷口学長を表敬訪問したほか、



谷口学長(右から2人目)を表敬訪問したエスブルーゲス教授

熊本大学医学部附属病院や国際先端医学研究拠点施設を見学しました。今後、ヴァレンシア大学と本学の間では、法学分野にとどまらない全学的な規模での関係強化が進められる見込みです。

## REPORT

## 「トビタテ!キャリアカフェ」が開催されました!

文部科学省・日本学生支援機構による官民協働海外留学創出プロジェクト(トビタテ!留学JAPAN)の主催による「トビタテ!キャリアカフェ」が、平成26年11月6日(木)、工学部百周年記念館を会場に開催されました。

「トビタテ!キャリアカフェ」は、海外留学について、「キャリア・就職」という多くの学生が関心を持つテーマでの講演やグループワークを通じて、留学のキャリアへの生かし方や留学の意義を理解するための学生向けのイベントです。会場には、本学の学生のみならず、他大学および高等専門学校から70人を超える参加者が集まりました。

当日は、株式会社リクルートキャリアの松本ふみ氏による、最新就活事情の解説や留学を含めたキャリアプランについて考えるワークショップをはじめ、留学後に就職活動を経て企業から内定を受けた先輩学生(本学2人、熊本県立大学および熊本学園大学各1人)によるトークセッションなどが行われ、留学についてさまざまな疑問を持つ参加者たちに大変好評でした。

また、「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム」プロジェクト・ディレクターである船橋力氏が熱弁をふるい、会場は盛会のうちに幕を閉じました。



留学後企業から内定をもらった学生たちによる「先輩体験談トークセッション」

REPORT 「平成26年度教員養成機能  
充実シンポジウム」を開催

平成26年12月6日(土)、「平成26年度教員養成機能充実シンポジウム」を開催しました。教員養成機能の充実を目指すもので、第3回目となった今回は、県内の国・公・私立学校の教職員や教育委員会関係者、学生などおよそ120人が参加しました。

文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室の森室長補佐から「今後の教員養成大学・大学院の在り方」と題して基調講演をいただいた後、教育学部の教員養成の取り組みとして、実践的カリキュラムや体験型学習の事例発表を行うなど、教育現場が求める実践的カリキュラムへの転換に向けての意識改革を図りました。



基調講演中の  
森室長補佐



学生による体験型  
学習事例発表

REPORT 満屋裕明教授が  
「第21回読売国際協力賞」を受賞しました

生命科学研究所血液内科学分野の満屋裕明教授が、「第21回読売国際協力賞」を受賞し、平成26年11月11日(火)、東京・丸の内の中の東京会館で贈賞式が行われました。

「読売国際協力賞」は、国際協力の分野で活躍し、多彩な活動内容と顕著な功績を示した個人・団体に贈呈されるものです。

満屋教授は、昭和60年に世界初のエイズ治療薬「AZT(アジトチミジン)」を開発したことを皮切りに、平成3年には「ddI(ジダノシン)」、翌年には「ddC(ザルシタビン)」、そして同18年に「ダルナビル」と、次々にエイズ治療

薬を世に送り出してきました。また、途上国の貧しい感染者が治療を受けられるよう、安い価格での提供にも尽力してきました。今回の受賞は、高度な研究と国際協力を結び付けた点が高く評価されたものです。

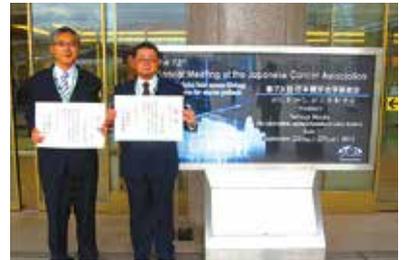


贈賞式に臨む満屋教授

REPORT 本学医学部出身の研究者が  
「日本癌学会奨励賞」を受賞

平成26年9月25日(木)～27日(土)に横浜で開催された「第73回日本癌学会総会」において、本学出身で生命科学研究所消化器外科学分野非常勤講師の古賀宣勝氏(国立がんセンター東病院実験動物管理室長/新薬開発分野)と、同研究部細胞病理学分野の菰原義弘准教授が、「日本癌学会奨励賞」を受賞しました。

古賀非常勤講師は「剥離癌細胞を対象にした新しい癌診断の開発研究」という研究テーマが、また、菰原准教授は「ヒトがん病態におけるマクロファージの重要性」という研究テーマが、それぞれ高く評価されたものです。



菰原准教授(左)と古賀非常勤講師

日本癌学会は日本有数の規模を誇る学会で、奨励賞はがん研究分野における顕著な業績をあげた40歳未満の若手研究者に贈られます。今年度は全国から9人が受賞し、その中で本学医学部出身の研究者が2人同時に選ばれたことは、本学としても大変喜ばしいことです。

REPORT 熊本大学医学部附属病院敷地内で  
江戸時代の用水路の石垣を発見!



石垣検出状況(西側から撮影)

平成26年10月、熊本大学医学部附属病院敷地内において、埋蔵文化財調査センターの発掘調査により、江戸時代の用水路「三の井手」の石垣が発見されました。

「三の井手」は、加藤清正公が水利政策の一環として開削したと伝えられているものです。これまでは絵図などから、熊本市内および病院敷地内を流れる用水路が「三の井手」の跡を引き継いでいると考えられてきましたが、今回の発見で、これとは少しずれた位置に別存在することが明らかになりました。

発見された石垣は、形や構造の特徴から、清正公の時代のもではなく、そ



現地説明会の様子

の後の改築時のものであることも分かりました。用水路は農業に直結するため、水路の変遷(へんせん)を解明することは、当時の社会の変化を解く鍵にもなり、今回の発見は近世・近代史の研究に寄与することが期待されます。

10月26日(日)には現地説明会を開催しました。現在、石垣は埋め戻され、附属病院の地下に保存されています。

REPORT

## 黒髪キャンパス学園祭「紫熊祭」を開催!

平成26年11月1日(土)~3日(月・祝)、第3回目となる「紫熊祭」が開催されました。

今年度のテーマである「I LOVE YOU.~月は綺麗ですか?~」は、旧制第五高等学校で教鞭を執った夏目漱石が「I love you」を「月がきれいですね」と訳したという逸話を基にアレンジしたもの。いろいろな人に感謝の気持ちを伝えられる学園祭になるようにとの思いを込め、定められました。

期間中は、学生だけでなく地域の方も楽しめるような企画が数多く開催され、キャンパスは大勢の人でにぎわいました。



また、11月1日(土)・2日(日)には、大江キャンパスで、薬学部学園祭「蕃滋祭」も開催されました。

REPORT

## 「夢科学体験2014」を開催

平成26年11月1日(土)、理学部・工学部・自然科学研究科で、「夢科学体験2014」が開催されました。

小学生から一般の方までを対象に、ドキドキ・わくわくするような実験などを通して科学の面白さ、不思議さに触れてもらうイベントで、毎年ファミリーや高校生のグループなど、多くの人々が参加しています。

22回目を迎えた今年は、およそ100件のテーマが用意され、参加者は本学の学生から手順を教わるなどしながら、真剣に、そして楽しそうに実験やものづくりに取り組んでいます。



INFO

## 特別支援教育相談室「ゆうサポート」を開設しました

平成26年10月1日(水)、熊本大学教育学部附属教育実践総合センターは、発達障がいなどがある子どもの学習・生活支援に取り組む相談室「ゆうサポート」を開設しました。当日行われた開所式では、中川保敬同センター長から相談員に登録証が手渡されました。

「ゆうサポート」は通常学級に通う園児や児童、生徒(幼児から中学生まで)が対象で、本学教育学部や大学院教育学研究科の学生36人が相談員を務め、必要があれば継続的な指導も行います。また、知的障がいや肢体不自由の相談にも応じます。学生にとっては相談活動の実例に触れることができ、経験を積む機会にもなっています。

【予約・問い合わせ】

火~金曜(祝日は除く)10:30~12:00

および13:00~15:30

Tel.096-342-2943

※電話でご予約ください



相談員に登録証を手渡す中川センター長



INFO

## 体験講座「遺伝子と仲良くなろう」を開催します!

普段よく目にする“遺伝子”という言葉。だけど、目に見えないものだし、本当のところはよく分からない……。

「遺伝子って一体何だろう?」と思っている方、大学の研究室での実験を通して、理解を深めてみませんか?皆さんの参加を心よりお待ちしております。

日時/平成27年2月7日(土)・8日(日)  
10:00~16:00

場所/熊本大学生命資源研究・支援センター 遺伝子実験施設  
6F講義室

対象・定員/中学生以上(2日間とも参加できる方)20名

参加費/無料

事前申込/受講申込書に必要事項を記入し、1月16日(金)までに郵送またはFax、メールでお申し込みください。

【申込・問い合わせ】

〒860-0811 熊本市中央区本荘2-2-1

熊本大学生命資源研究・支援センター

遺伝子実験施設

Tel.096-373-6501

Fax.096-373-6502

E-mail: idenshi@gtc.gtca.kumamoto-u.ac.jp

URL: http://gtc.egtc.jp/idenshi/view/exp/rikai2014



## 熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.27 (平成26年9月1日～平成26年11月30日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約5億8696万円(平成26年11月30日現在)のご寄附をいただき、臨床医学教育研究センター建設や本学学生の留学支援、課外活動支援、60年史編纂事業等、研究・教育に資する事業に取り組ませていただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成26年9月1日から平成26年11月30日までの間に入金を確認させていただきました個人155名、6法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者の皆様

(寄附金額別・五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※( )内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【100万円】	芳賀 義雄(305)	杏龍会(200)			
【40万円】	高濱 和夫(50)	【30万円】	谷口 功(300)		
【10万円】	菊池 健(150)	菅野 幸裕(40)	藤井 博行(50)	【5万円】	平峯 哲郎
【5万円未満】	牛嶋 研三郎	小野 和典	北里 敏明	古閑 忠之	境 晴信
	丹下 孝輔	永野 香代子	中村 亮一	山本 博伸	
	株式会社Future Scene Consulting & Engineering			熊本大学理学部四回生同窓会	

### 2. お名前のみ掲載を希望された寄附者の皆様

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[ ]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

芥川 卓也[3]	池之上 薫	石本 祥二郎[6]	井上 赳[2]	内田 豪峰[4]	衛藤 光明[8]
大石 順子	大槻 瓊士[2]	緒方 雄輔[7]	乙葉 修[5]	片山 啓次郎[2]	香月 康之
加藤 賢二[4]	亀崎 佐織[3]	岸川 浩一郎	清元 晃[2]	河内 宏之	小島 敏克
後藤 明夫	佐伯 千恵子[5]	坂元 英征	坂本 芳文[2]	杉山 新治	瀬戸 致行[6]
園田 哲朗	多久島 和[2]	田中 源郎	富岡 邦安[3]	塘 正弘[3]	西菌 弘毅
野角 俊明	浜田 雅暢	濱邊 鶴志[3]	平川 裕之[2]	福田 康敏[4]	二塚 信[5]
古本 幸也[2]	堀野 敬[4]	松野 助成	三股 祐輔	養田 眞幸[8]	向田 敬二[5]
室原 玄十二[2]	森 孝生	森田 哉耶花[2]	諸藤 元信[2]	山下 喜八郎[4]	横田 宗利
吉田 あかり	吉田 実[3]	吉富 康幸			
医療法人秋津会徳田脳神経外科病院[2]		医療法人社団永芳会永芳医院[3]		堤化学株式会社[8]	

### 3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人87名

#### REPORT 「第4回熊本大学関西連合同窓会」に182名が参加

平成26年11月29日(土)、「太閤園」(大阪市都島区)において「第4回熊本大学関西連合同窓会」が開催され、関西地区の同窓生など182名が参加しました。

西山多加志会長の挨拶によって幕を開けた総会の後、谷口学長や稲葉継陽永青文庫研究センター長による講演が行われ、引き続き開催された交流会では、参加者は世代や学部を超えて絆を強めました。閉会に際して現役学生である西本徹応援団団長から“巻頭言”及び“五高寮歌”が披露され、五高スピリットである「剛毅木訥(ごうきぼくとつ)」の精神の下、手拍子とともに盛大に合唱し、盛況のうちに終了しました。



#### REPORT 芳賀義雄様へ特別栄誉会員の感謝状が贈られました。

このたび、芳賀義雄様(日本製紙株式会社代表取締役会長)から熊本大学基金に対し、多額のご寄附をいただきましたことから、谷口学長より特別栄誉会員の感謝状が贈られました。

芳賀様は、熊本県ご出身で、昭和49年に本学大学院工学研究科を修了された後、日本製紙株式会社において代表取締役社長などの要職を歴任され、我が国の製紙産業を牽引し、その発展に大きく貢献してこられました。芳賀様へは谷口学長から感謝状と併せ「入神致用」の扁額が贈呈されました。



いくつになっても学びたい!

# 熊本大学で生涯学習!

熊大の知を還元する無料講座

⑨ 知のフロンティア講座

テレビ・ラジオ・インターネットで気軽に受講

⑨ 放送公開講座

学生と一緒に講義室で学ぶ

⑨ 授業開放

教養やスキルアップを目指す方へ

⑨ 公開講座

平成27年度の授業開放科目の受講生募集は2月下旬頃、

その他は4月以降に順次開講予定です。

資料のご請求は下記までどうぞ!

知のフロンティア・放送公開講座に  
関するお問い合わせ

TEL.096-342-2044

E-mail [seisoken@kumamoto-u.ac.jp](mailto:seisoken@kumamoto-u.ac.jp)

授業開放・公開講座への  
お申し込み

TEL.096-342-3121

E-mail [manabou@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:manabou@jimu.kumamoto-u.ac.jp)



熊大はあなたの  
“学びたい”を  
応援します!

生涯学習イメージキャラクター  
しげきくん



Facebookで最新情報を発信中!

<https://www.facebook.com/kumadaishogai>



熊本大学政策創造研究教育センター

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1共用棟黒髪1

TEL.096-342-2044 FAX.096-342-2042

E-mail [seisoken@kumamoto-u.ac.jp](mailto:seisoken@kumamoto-u.ac.jp)

<http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp>